

あわせていくつ ふえるといくつ

授業のポイント

思いや願いを豊かに表現できる子の育成を目指して

自分の考えを、ブロック操作を通して表現（自分で動かす、友達と見せ合う）していく学習から、さらにはを通して、操作を言葉で表現していくことができるようにしたい。

授業改善に向けての考察

子どもに身につけたい力について（特に表現力・発表力に関して）

問題把握場面の工夫

合併の場面に比べ、増加の場面では「はじめ でした。そこへ～」というように時間的経過が伴う。合併の場合との違いが分かりにくいので、問題把握の場面では、より分かり易いように工夫してみた。

ブロック操作と言語表現

表し方（ブロック操作での表現）が異なっても、「2つの数量を合わせて1つの数量にする」という観点からすると、「合わせていくつ」も「増えるといくつ」も「全部でいくつか」「みんなでいくつか」を求めることでは同じこと（結果的に同じ）と加法の意味を確実に捉えさせたいとブロック操作を重視することにした。そして、増加のブロックの動きは、合併の時のブロックの動きと異なることにも気づかせることが大切だと考え、子どもたちがそれぞれブロック操作を行い、指名し 黒板上でも操作させと繰り返し、その後、言語で動きを表現させてみた。

学習活動中の子ども

子どもたちは、「もともとは5ひきだから…」などつぶやきながら、ブロックを動かしていた。これは、自分で考えたことを、ブロックの動きと言葉で表現していたと思われる。

1年における表現力・発表力

1年の段階では、挙手 指名 発言という 表現力・発表力を身につけさせることが大切と考えるが、それ以外にも「いいです。」「同じです。」のように、自分の考えや意見を、反応よく自由に言うことも表現力・発表力のもととして重要だと考え、指導してきている。

改善点

- ・系統性の高い算数という教科ではあるが、初期の学習段階である1年生でも、言葉の理解や経験差など、すでに大きな差が見られる。
- ・したがって、ブロック操作では答えを出すことはできるが、言葉ではなかなか表現できない子どももいる。

- ・これまでも常に操作と言葉をセットにして、確かめながら授業をしてきたが、本時の学習場面では、より一層ていねいに指導することが大切であった。
- ・また本時は、子どもたちが様々な表現をしていたことを、すくい取り、評価することで自信をつけさせるよい機会であった。
- ・今後とも、より丁寧に見取りをしていかなければならないと考えている。